

個人株主の皆さまにお届けする情報誌

NYK

plus

NYK プラス
2024 Autumn

Vol.
36

[特集] 人流・雇用創出で地域に賑わい
秋田・北海道と連携協定、支店開設で地元密着



藻場を再生するウニノミクスを支援 ブルーカーボン事業に参画

当社ではウニの採取・畜養で藻場を再生し、海藻・海藻の二酸化炭素(CO₂)の吸収・削減による温暖化防止を目指す企業を支援しています。このたび当社は Urchinomics Group (ウニノミクス・グループ、以下「ウニノミクス」)を100%保有する Verdant Bloom Ltd.(ヴェルダント・ブルーム)への出資を決めました。増えすぎたウニが海藻を食べつくし、藻場が枯れる「磯焼け」は、日本など世界各地で問題となっています。そこでウニノミクスは、国内外の複数拠点で増えすぎたウニを採取し、食用に適したウニへと育てる畜養を行っています。

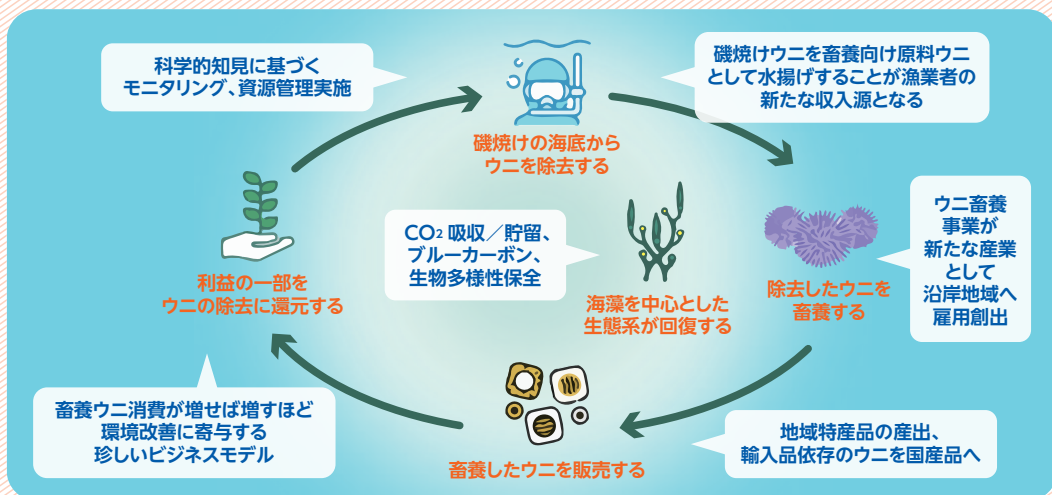
海洋の浅瀬に海藻が群生する藻場は、光合成を通して大気中のCO₂を吸収・貯留する「ブルーカーボン」としても注目を集めています。当社ではヴェルダント・ブルームに対する出資を通じて、磯焼けという社会課題の解決とブルーカーボンクレジット創出という新しい挑戦を始めています。

ウニノミクスとの関係は2020年、シンガポールに駐在していた当社ドライバルク事業本部所属の若手社員が偶然本事業を知り、心動かされ、自ら直接連絡を取ったことから始まりました。そうした経緯もあり、現在はドライバルク事業本部内の新規事業開発チームが主体となりこの取り組みを支援しています。

藻場の再生が進めば、将来的に日本のみならず世界各地で年間何万トンものCO₂が削減される可能性を秘めています。また削減されたCO₂は当社ドライバルク事業でのカーボン・オフセットとして利用することも期待しています。

当社は、海の環境を守ろうと熱意を持って取り組んでいるウニノミクスの皆さんや、豊かな海を取り戻し、次の世代にどう引き継ぐかを真剣に考えている漁師の皆さんへの支援を通じ、同じく海を事業のフィールドとしている海運会社として、その熱い思いを共有して活動していきます。

ウニ畜養事業の循環型ビジネスモデル



飢餓状態のウニ



畜養後の殻付きウニ

人流・雇用創出で 地域に賑わい

秋田・北海道と連携協定、
支店開設で地元密着

■洋上風力発電で雇用創出

当社はこのほど、秋田県と北海道に支店を開設しました。2022年4月に設置した秋田支店は当社にとって59年ぶりの国内新規支店となりました。続いて今年4月に立ち上げた北海道支店は国内6拠点目の支店で、15年ぶりの道内拠点です。行政機関、経済界などと連携しながら地元の皆さんが求めていることを探り、現地に展開する当社グループを挙げて、地域と共に長期的、安定的に発展していける関係づくりと具体的な取り組みを進めています。

日本の地方に共通した課題は人口減への対応です。われわれはその解決の糸口の一つが洋上風力発電にあると考えます。

2023年7月、国内ではまだ珍しい1隻の船の運航を北海道の石狩湾新港で始めました。船名は「RERA AS」（レラアシ）。アイヌ語で「風が吹く」という名前をまとめたこの船は、洋上風力発電機を保守管理する技術者を運ぶCTV（Crew Transfer Vessel）と呼ばれる船です。世界的な風力タービンメーカー、Siemens Gamesa Renewable Energy社へ傭船し、石狩湾新港洋



秋田県鹿市に開設した「風と海の学校 あきた」
Photo by Nozomi Takahashi (ozimoncamera)

当社は2022年2月に秋田県と、2024年1月に北海道とそれぞれ包括連携協定を締結し、それに基づく取り組みを進めています。これらの協定は地域の活性化に向けて協力して取り組むことがねらいです。いずれも洋上風力発電をはじめ再生可能エネルギーのポテンシャルが高い地域。地元の産官学や当社グループ会社と連携を深めながら、新たに生まれる物流需要への対応、人の流れと雇用の創出、人材育成を通して、地方創生に貢献します。



北海道の石狩湾新港沖で
運航しているCTV「RERA AS」

上風力発電所の保守管理を支えています。今後、国内で洋上風力発電が普及するにつれて、CTVの需要が増える見通しです。われわれは秋田県沖の二つの大規模洋上風力発電事業でCTVに関する協力企業にもなっており、秋田県でも運航に向けた準備を進めています。

洋上風力発電は地元密着の事業です。加えて、発電事業の立ち上げに向けた調査、建設、運転期間を通して25年以上にも及ぶ長期のプロジェクトになります。そこにはCTVをはじめとする多様な船舶が必要になり、その乗組員の雇用が地元を生

まれます。その需要に応えるため、人材育成にも着手しました。

■人の流れを生む「学校」

今年4月、秋田県男鹿市に「海と海の学校 あきた」を開設しました。日本海洋事業(株)と共に運営するこの施設は、洋上風力発電機を保守する技術者や、CTVの乗組員などを養成するための各種トレーニングを提供しています。秋田県、男鹿市の協力を得て、産官学連携で立ち上げたもので、洋上風力発電という新たな産業に人材を供給する拠点となります。

運航する客船「飛鳥Ⅱ」の見学会を行い、男鹿市の中学生と保護者ら60人を招待しました。「飛鳥Ⅱ」には「風と海の学校 あきた」で研修を受けた乗組員が乗船しています。地元で研修を受けた乗組員が活躍する現場を見学することで、船の仕事により身近に感じる機会になったことでしょうか。

また、今年、秋田市の公立小学校40校の子供たちに、海の仕事を理解してもらうために当社が(株)文響社と作成した「うんこドリル 海の物流」を合計1万3442冊寄贈しました。県内の高校などに船長や機関長

この施設を開設したならいは訓練の提供にとどまりません。その一つが、そこを起点とした人流の創出です。数日間にとどまらず、秋田県内に県内外から繰り返し人が訪れ、そこには宿泊や飲食の需要が生まれまします。いずれは年間1000人の訓練を目指しており、その人たちが訓練のためだけではなく、観光先として改めて秋田に注目するきっかけにもなるでしょう。

加えて、洋上風力をはじめ海洋分野における次世代の人材確保につなげます。この施設の特徴は秋田県立男鹿海洋高等学校という教育現場

を派遣し、海の仕事に関する出張授業も行っています。

地域に今までなかった仕事を生み出し、そこに従事する人材を育て、次世代人材のすそ野も広げる。このような人材への取り組みについては、北海道でも地元のパートナーと何らかの取り組みを共創できないか検討していきます。

■地域と共に

秋田支店の開設以来、現地で2年半にわたり地元とのネットワークづくりに取り組んできた下村達也秋田支店長は、「私たちが目指して

の中にあることです。生徒が廊下を通る際に最新式の操船シミュレーターやそれを使って訓練を受けているプロの乗組員を日常的に見ることができます。操船シミュレーターは学校教育でも既に活用されており、その風景や経験は生徒の心に深く刻まれることでしょう。それが将来の職業選択のきっかけや、洋上風力や海の仕事への理解増進につながることを期待しています。

このほかにも地元の人たちに船の仕事を身近に感じてもらう取り組みを行っています。今年8月に、当社グループの郵船クルーズ(株)が

いるのは地域と共に成長・発展していく共創モデルです。当社がこ秋田県に来たことで賑わいや新たな経済活動を創出できれば、さらに人が集まり、新たな事業機会が生まれます。このような好循環をつくり、地方創生につなげられる存在になりたいです」と話します。

秋田での活動範囲は洋上風力発電にとどまりません。観光振興のため客船内



秋田県男鹿市の船川港に入港した「飛鳥Ⅱ」を地元中学生が見学

海事業界をリードする研究に取り組む



株式会社
Monohakobi Technology Group

株式会社MTI

船舶物流技術グループ
シミュレーションチーム長
角田 領さん

秋田県、北海道との包括連携協定の概要

秋田県（締結日：2022年2月8日）

当社と秋田県が、それぞれが有する人的・物的資源を有効に活用して、地域の活性化と県民サービス向上の推進等を図ることを目的とする。

対象

- | | |
|-------------------------------|--------------------|
| (1) 再生可能エネルギー事業の推進に関すること | (4) 港湾の活用に関すること |
| (2) 再生可能エネルギー事業に係る人材の育成に関すること | (5) 観光振興に関すること |
| (3) 船に係る人材の育成に関すること | (6) 環境保全活動に関すること |
| | (7) その他、地方創生に関すること |

北海道（締結日：2024年1月23日）

当社と北海道は相互連携・協力関係に基づいて意見・情報交換を行い、課題解決へ向けて協働で取り組む。

対象

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| (1) 物流に関する事項 | (2) 北海道の持続的な活性化に関する事項 |
| ・物流の振興に関する取り組み | ・道産食材の活用に関する取り組み |
| ・道内港湾の活性化に関する取り組み | ・北海道の観光振興に関する取り組み |
| ・エネルギーの安定供給に向けた輸送事業に関する取り組み | ・北海道の未来を担う人材育成に関する取り組み |
| | (3) その他、双方が必要と認める事項 |

での料理に用いられる食材や酒類についての話し合いも進んでいます。今年4月に赴任した森本政博北海道支店長は「北海道はもともと開拓の地。私の役割は、拓き・創り・つなげる「こと」です」と意気込みます。豊かな自然に恵まれた北海道では、カーボンニュートラル技術の社会実装に向けて積極的な取り組みが行われており、洋上風力発電を活用したグリーン水素・グリーンアンモニアをはじめとするゼロエミッション燃料や二酸化炭素の回収・貯留技術（CCS）の実用化に向けた研究と事業開発が進む見通しです。進出

が進む半導体工場やデータセンターの建設に伴う物流需要や、トラックから船舶への輸送移行により内航輸送の需要も高まっていくでしょう。地域に生まれる物流需要に対して、われわれが海運会社、物流会社としてお役に立てることは多いと思います。地元の方々と日々対話をしながら、新たな事業に取り組む、人の流れや雇用を生み出すことで、地域の活性化に貢献していきます。これは当社グループが掲げるESG経営（環境・社会・ガバナンス）における社会との関わりにおいても重要な取り組みになると考えています。

社内ではデスクに仕切りがなく、周囲とのコミュニケーションがとりやすい環境です。



シミュレーションモデルの開発に必要なデータを得るために実験を行うこともある。写真はコンテナの模型を使った実験の様子。



「日本一のモグラ駅」こと土合駅にて。電車好きの子どもたちと電車に乗って小旅行に行くことが多い。

■ 海事産業の技術開発手法をアップデート

日本郵船グループ会社で船舶技術に関する研究開発を担う(株)MTI (Monohakobi Technology Institute) は、2022年に造船所や船用メーカーとともに東京大学に社会連携講座「海事デジタルエンジニアリング講座：MODE lab」を立ち上げました。自動車産業などで導入が進むモデルベース開発※などの技術開発手法を、日本が世界に先駆けて船舶分野で根付かせるため、各種研究と人材育成を推進していきます。

※コンピューター上に再現したモデルを使ってシミュレーションを行う開発手法



かくた りょう
角田 領さん

2008年(株)MTI入社。入社後は運航データ収集システムの開発やデータ分析などを担当。2016年からシンガポール支店に配属、2018年から日本郵船が出資するコンテナ船社オーシャンネットワークエクスプレスに出向し、コンテナ船の運航支援システムの開発などを担当する。帰任後は2020年から船舶物流技術グループシミュレーションチームで無人運航船プロジェクトに携わる。

技術の力で日本郵船グループの安全運航に貢献

—— (株)MTIに入社したきっかけを教えてください。

大学時代、大量の文章を分析して情報を抽出する「テキストマイニング」の技術を使って、見張り中の乗組員の会話を分析する研究テーマに取り組み機会があり、そこから私の船舶分野での研究者人生が始まりました。その後研究を続け、博士号を取得しましたが、卒業後は実際の現場に近いところで研究がしたいと考え、船の現場の近くで研究ができる当社に入社を決めました。

—— これまでの研究や現在の仕事内容は。

入社後の研究テーマの中心は「燃費削減」です。今でこそビッグデータやIoTの活用は船でも普及していますが、私が入社した頃は船の燃料消費のデータは1日1点の手入力データしかなかったため、分析のためのデータ収集装置開発から始めました。その後、コンテナ船の運航データ分析や、運航支援システムの開発などにも取り組みました。2020年からは日本財団の無人運航船プロジェクト「MEGURU-2040」で自動運航システムをテストするためのシミュレーション環境の開発に携わり、現在も取り組んでいます。また、東京大学の社会連携講座

「海事デジタルエンジニアリング講座：MODE lab」に派遣研究員として携わっています。

—— この仕事のやりがいや面白さは。

誰かの真似ではなく、パイオニアとして新しいことを一歩でもリードして取り組むことが、研究者として最もやりがいがあり、面白さを感じます。

—— 仕事をする上で心掛けていることは。

研究者以外にもわかりやすい表現で研究の意義、内容を伝えるように努めています。

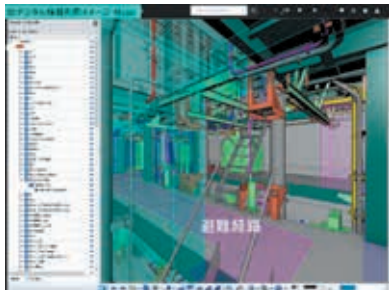
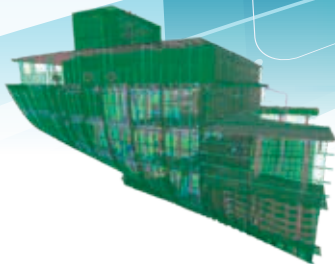
—— 今後の目標は。

チームでは、船舶の風や波の中での推進性能や、運動性能、動揺の大きさや貨物への影響を事前に予測したいなどの、さまざまなニーズに応えられるシミュレーションのエキスパート集団となり、当社グループの安全運航、効率運航に貢献することです。私個人としては、海事業界全体をリードし、バーチャルエンジニアリング技術を定着させるといった大きな目標があります。これを実現し、脱炭素化や自動運航船の普及に貢献していきたいです。

「3Dモデル」活用し新造船を設計

当社はグループ会社
ユーザー上で完成形
を開始しました。
や作業量の削減を目

の(株)MTIらと共同で、船舶を建造する際の初期設計に、コンピ
ューター上で完成形
を開始しました。
や作業量の削減を目
指し、船舶設計のDXを推進します。



3Dモデルイメージ

ト」を開始しました。3Dモデルを活用
するトライアルはこのプロジェクトの一
環で、村上秀造船(株)が建造する共栄タン
カー(株)向けのLPGタンカーの設計で行
われます。

船を建造する際には、船をどのような
仕様にするか、船会社と造船所の間で何
度もやり取りを重ねて決めていきます。
これまでは、その作業に造船所が設計し
た平面の図面が活用されてきました。船
舶の複雑な三次元の構造を平面上に表
現した従来の図面は、理解するのに独特
のノウハウが必要で、船の複雑な構造を
二次元の図面のみで理解することはな
かなか容易でない場面もあります。また
船会社と造船所の担当者の間で行われ
る設計の確認作業にも、多くの作業量や
時間を要しています。

この課題を解決するための手段の一つ

初期段階に完成形を可視化、作業量を削減

が3Dモデルの活用です。これを活用す
ることで設計の初期段階から完成した船
の姿を立体的にコンピュータ上に再現
できるので、われわれ船会社や造船所の
担当者が直感的に船の設計を理解するこ
とができます。そのため、設計の初期段
階で問題点を把握して修正することがで
き、後の工程での設計変更を減らすこと
につながります。

当社が船舶設計の作業のピークを前倒
しする「フロントローディング」の取り
組みを始めたのが2021年5月。(株)M
T I や(株)スマートデザイン、国内造船所
らと共同で「船舶設計合理化プロジェク

このトライアルに向け、船の設計情報
を3Dで表現できるプラットフォームを
制作しました。関係者がこのプラットフ
ォームを共同で使用し、船の仕様の決定
を早期化することを目指します。

この3Dモデルは船が就航した後にも
活用していきます。これまで船の完成時
に造船所から船主へと平面の図面で引き
渡されていた完成図書(※)を3D化す
ることで、乗組員も船の図面を理解しや
すくなり、適切な管理につなげることが
できます。

当社はトライアルで作業量の削減効果
を検証し、それを基にシステムの改善を
行っていく予定です。そして、将来的にはこ
のシステムを普及させることで、造船・
海運業界のDXに貢献していきます。

フィリピン商船大学の第13期生が卒業、女子寮も完成

当社がフィリピンのマニラ近郊で現地パートナーと共同運営する商船大学 NYK-TDG MARITIME ACADEMY (NTMA) で7月5日に第13期生の卒業式が開催されました。式典には当社から取締役会長の長澤仁志、代表取締役社長の曾我貴也らが出席し、卒業生95名の門出を祝いました。2007年に開校したNTMAはこれまでに1551名の卒業生を輩出し、その多くが当社グループの運航船で航海士や機関士として活躍しています。今年はNTMAに女子寮が完成し、女子学生も入学しました。当社グループでは女性船員も世界中で活躍しており、多様な人材が活躍できる職場環境の整備と人材育成に力を入れています。(2024年7月)



NTMAに女子学生15名が入学した

横浜「うみ博」に出展、海の仕事や魅力を発信

当社グループは8月3日・4日に横浜港で開催された「うみ博2024」(主催=海洋都市横浜うみ協議会)に出展し、自動車専用船の船内見学、船乗りによるトークイベント、タグボートの体験乗船会、操船シミュレーター体験など、参加者が五感を使って楽しめるイベントを開催しました。自動車専用船の一般向け船内見学会はコロナ禍による中断を挟んで5年ぶりとなり、横浜港大さん橋に入港した「CENTAURUS LEADER」は約850名の訪問を受けました。トークイベントでは、航海中の船の船長と子どもたちが対話するプログラムも実施しました。多くの人たちに海の仕事や海運の重要性を伝える機会になりました。(2024年8月)

NYKニュース

自動車船の車両固縛用ベルトをリサイクル

当社とグループ会社の郵船商事(株)はアズビル山武フレンドリー(株)、加山興業(株)とともに、今年4月から自動車専用船で使用され古くなった車両固縛用ベルトのリサイクルを開始しました。従来、産業廃棄物として処理していた固縛用ベルトを回収し、金属部品とベルトに分別のうえ、プラスチック製のベルトを原料として固形燃料を製造します。当社が運航する自動車専用船全体で年間約20万本の固縛用ベルトが中古品として売却、もしくは産業廃棄物として処理されており、その全てをリサイクルした場合、約20トンの燃料をつくることができます。自然環境に配慮した取り組みであるとともに、リサイクルの過程で外国人技能実習生など多様な人材を受け入れています。(2024年4月)

再生航空燃料を輸送、持続可能な社会に貢献

当社グループのNYK Bulkship (Asia) Pte. Ltd. (NBAsia) はエネルギー企業Neste Oyj (ネステ) が精製した再生航空燃料(SAF)の輸送を初めて行いました。タンカーでシンガポール港から北米のロサンゼルス港、サンフランシスコ港へ輸送しました。SAFは廃食用油などの再生可能な原料から製造される航空機用ジェット燃料で、従来の原油由来の燃料と比べて温室効果ガスを最大80%削減する効果があります。NBAsiaはネステが建設機械やトラック、自動車向けに精製した軽油代替燃料であるリニューアブル・ディーゼルの輸送でも実績があります。今後も脱炭素に資する次世代燃料の輸送を通して、持続可能な社会の実現に貢献していきます。(2024年5月)

客船「飛鳥II」、ニューヨーク港で日本文化を発信

郵船クルーズ(株)は6月3日、北米のニューヨーク港に停泊中の客船「飛鳥II」の船内で日本文化を発信するイベントを開催しました。2人の重要無形文化財保持者(人間国宝)を交えた鼎談と船内に展示された約100点の伝統工芸作品を鑑賞する船内ツアーが行われ、美術関係者やメディア関係者ら約80人が参加しました。鼎談には、元文化庁長官の近藤誠一氏、蒔絵の人間国宝・室瀬和美氏と能・小鼓の人間国宝・大倉源次郎氏が参加し、日本文化として受け継がれてきた芸能と工芸の結節点について意見が交わされました。当社は今後も郵船クルーズ(株)の株主として、「飛鳥II」や2025年に就航する予定の新造客船「飛鳥III」を活用した伝統文化の発信を支援していきます。(2024年6月)

株主の皆さまへの情報発信をWEBに移行いたします

平素よりNYKplusをお読みいただき、誠にありがとうございます。NYKplusは今号で終刊し、今後は各ソーシャルメディアにて、引き続き株主の皆さまへ情報を発信してまいります。今後ともご愛顧賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



公式
ウェブサイト



公式
Instagram
グラム



公式
YouTube
チャンネル



公式
X
アカウント



公式
LinkedIn
ページ

「氷川丸」の汽笛



「氷川丸」(右手前)と「飛鳥II」

山下公園(横浜市)に係留されている「氷川丸^{*}」は横浜の顔といっても過言ではない存在です。そんな「氷川丸」が鳴らす汽笛も街を彩る音色として親しまれています。

汽笛は本来船の動きを周りに知らせるものですが、かつて貨客船として活躍した「氷川丸」は係留された今もなお汽笛を鳴らします。正午を知らせる汽笛に加え、トライアスロンやマラソン大会の開催時にもその音色が響き渡ります。当社グループの郵船フーズ(株)が運航する客船「飛鳥II」が横浜港を出港する際には長音を3回鳴らし、安全運航を祈ります。

このようにさまざまな場面で鳴らされる汽笛ですが、除夜の鐘ならぬ「除夜の汽笛」は横浜市民の年明けに欠かせない音でしょう。「氷川丸」をはじめ港内に停泊する船が一斉に汽笛を鳴らす様子は正月の風物詩となっています。

1996年には「横浜港新年を迎える船の汽笛」が「残したい日本の音風景100選」に選ばれました。これは環境庁(当時)が、全国各地で人々が地域のシンボルとして大切に、将来に残していきたいと願う音の聞こえる環境(音風景)を公募して選定したもので、名実ともに街の象徴となりました。

^{*}氷川丸：1930年、横浜船渠(後の三菱重工業)にて建造されシアトル航路に投入された当社貨客船。1961年、山下公園に係留。戦前の日本で建造され、現存する唯一の大型貨客船で、2016年、国の重要文化財に指定。

海事用語 AtoZ

本誌の中でご紹介した記事の中から、わかりにくい専門用語を解説します。

【操船シミュレーター】〈そうせんしみゅれーたー〉

5ページ

航海機器とコンピューターグラフィック技術を組み合わせて、実際に船を動かしているような環境を再現できるシステムです。「風と海の学校 あきた」に導入されたのは着座式で、前方に複数のモニターを設置。さまざまな船舶の交通や気象海象条件を設定し、港と洋上に建てられた風車の間の航行や、風車の保守作業員を船から風車、風車から船へと渡すために船首を風車設備に押し付ける操船の訓練に用いられます。

【運航支援システム】〈うんこうしえんしすてむ〉

9ページ

船舶の運航をさまざまな観点から支援するシステムのことで。例えば、船舶からデータを収集し、航海中の状態を把握することで、燃料消費量や温室効果ガスの削減につなげたり、寄港地への到着日時、航行速度などについて、最適な運航スケジュールの作成を支援するものもあります。当社グループはこのようなシステムを開発・導入することで、安全で環境に配慮した運航を実現しています。

【無人運航船】〈むじんうんこうせん〉

9ページ

自動的に衝突を回避することが可能なシステムや、遠隔地からの操船によって、乗組員の手を介さずに運航される船のことで。日本財団が進める無人運航船プロジェクト「MEGURI 2040」には当社グループも参画し、2022年度に世界に先駆けて内航船の無人運航実証実験に成功しています。

【船舶の初期設計】〈せんぱくのしよきせつけい〉

11ページ

船舶の設計は初期設計、基本設計、詳細設計という段階を踏んで進みます。このうち初期設計は最初の段階で行われるもので、船主がその船に求める性能などを踏まえて、船舶の寸法やエンジン出力など船の仕様の大枠の決定や、船内のレイアウトを示す一般配置図の作成などを行います。この過程を経てより細かな設計を進めていきます。

【LPGタンカー】〈えるびーじーたんかー〉

12ページ

プロパンやブタンなどの液化石油ガス(LPG)を運搬できるタンカー。ガスを液化する方式として、圧力をかける加圧式、冷却するフルレフ式、加圧と冷却の両方を用いるセミレフ式があります。長距離輸送に用いられる大型LPGタンカーはフルレフ式です。LPGタンカーには、燃焼時に二酸化炭素を排出しない次世代燃料として注目されるアンモニアを輸送できるタイプもあります。

横浜発 ニューイヤー グラム・サイバングルーズ ★★

横浜～グアム～サイパン～横浜

2024年12月26日(金)～2025年1月5日(日) 11日間 旅行代金 726,000円～3,411,000円

横浜発 新春 グループサウンズクルーズ ★

2025年1月6日(日)～1月8日(火) 3日間

横浜～清水～横浜 旅行代金 138,000円～671,000円

横浜発 旅はじめ 名古屋クルーズ ★

2025年1月8日(日)～1月11日(水) 4日間

横浜～名古屋～横浜 旅行代金 199,000円～931,000円

横浜発 / 神戸発 2025年 オセアニアグランドクルーズ ★

横浜～神戸～サイパン～ケアンズ～シドニー～メルボルン～(ミルフォードサウンド)～オークランド～ベイ・オブ・アイランズ～グアム～横浜～神戸

Aコース: 横浜発着 2025年1月19日(日)～2月27日(日) 40日間

Bコース: 神戸発着 2025年1月20日(日)～2月28日(日) 40日間

旅行代金 2,900,000円～14,100,000円

神戸発 春のウィークエンドクルーズ ★

2025年3月1日(日)～3月3日(火) 3日間

神戸～神戸 旅行代金 134,000円～651,500円

横浜発 A-style クルーズ ～春彩～ ★

2025年3月21日(金)～3月23日(日) 3日間

横浜～横浜 旅行代金 140,500円～683,000円

横浜発 春うらら 姫路・高知・日向クルーズ ★

横浜～姫路～高知～細島(日向)～横浜

2025年3月23日(日)～3月29日(日) 7日間 旅行代金 440,000円～2,084,000円

横浜発 / 神戸発 2025年 世界一周クルーズ ★

横浜～神戸～シンガポール～レユニオン島～ケープタウン～ウォルビスベイ～テネリフェ島～バルセロナ～ポルト～ビルパオ～ルーアン～ティルベリー～ボストン～ニューヨーク～ナッソー～カルタヘナ～パナマ運河通航～プンタレナス～マサトラン～サンフランシスコ～ホノルル～横浜～神戸

Aコース: 横浜発着 2025年3月31日(日)～7月11日(日) 103日間

Bコース: 神戸発着 2025年4月1日(日)～7月12日(日) 103日間

旅行代金 8,000,000円～40,200,000円

「飛鳥II」クルーズ一覧 <https://plan.asukacrui.se.co.jp>

★=株主様が優待割引がご利用いただけます。

★=アスカクラブ特別割引代金の設定がございます。

★=子供代金の設定がございます。詳しくはお問い合わせください。

※この他にもクルーズラインアップがございます。満室のクルーズ、客室タイプもございますのであらかじめご了承ください。

※株主様ご優待割引は他の割引と重複してご利用いただくことはできません。ご了承ください。



飛鳥IIがお届けする 最後の世界一周クルーズ



セーヌ川航行中の飛鳥II

My ASUKA CLUBへぜひご入会ください

入会金・年会費 無料

アスカクラブ会員サイト「My ASUKA CLUB」は2歳以上の方ならどなたでもご入会いただけます。便利でお得な情報満載の「My ASUKA CLUB」へこの機会にぜひご入会ください。

<https://myac.asukacrui.se.co.jp>



パンフレットのご請求・お問い合わせ



郵船クルーズ株式会社

TEL 045-640-5301
FAX 045-640-5366
営業時間 / 10:30～17:00
土・日・祝休み

<https://www.asukacrui.se.co.jp>

初代「飛鳥」から引き継ぎ、約20年にわたり歴史を積み重ねてきた「飛鳥II」で航く世界一周クルーズが最終章を迎えます。

ファイナルを飾るこの旅は、赤道を通過し、大航海時代に探検家たちが切り拓いた喜望峰航路で世界の名所へ。壮大な自然と魅力的な歴史、豊かな文化に出会える12カ国18港をめぐる旅です。陸路や空路で内陸の見どころを訪れるランドツアーもご用意いたしました。

ご夕食時のアルコールを含むドリンク無料、WiFi接続回数無制限などの特典も。船上ライフがより豊かに快適になります。

※本クルーズは株主様ご優待割引がご利用いただけます。

NYKと 農業用トラクターのはなし

畑の耕作や収穫作業を行う農業用トラクターは、コンテナ船や自動車専用船で運ばれます。大型トラクターは主に欧州から北海道などに向けて輸入され、畜産用の飼料となる牧草づくりで活躍します。中には通常のコンテナに入りきらないものもあり、その輸送には上部や側面が開放された特殊なコンテナが使われます。また、日本製トラクターは国内で用いられるほか、米国などに輸出もされます。当社が出資するコンテナ船社オーシャンネットワークエクスプレスは輸入で年間約600本、輸出で同じく約1000本を輸送（20フィートコンテナ換算）。日本や世界の食を支えています。



日本郵船